

特250

41

新編 修養園概要



始

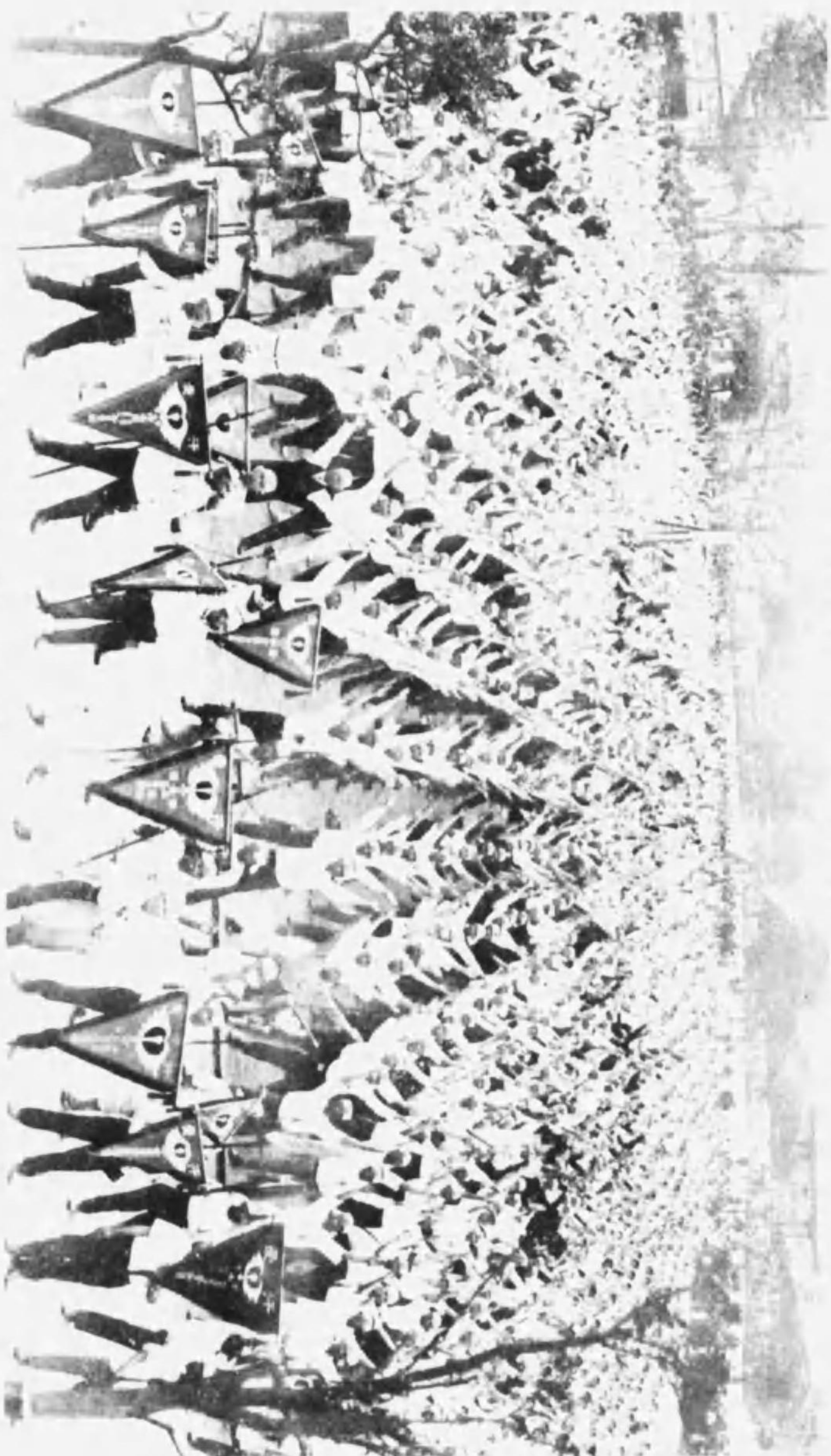


特250

41

財團
法人
修
養
團
概
要

持250
41



修養の會大員團西關團養修

昭和五年五月五日撮影

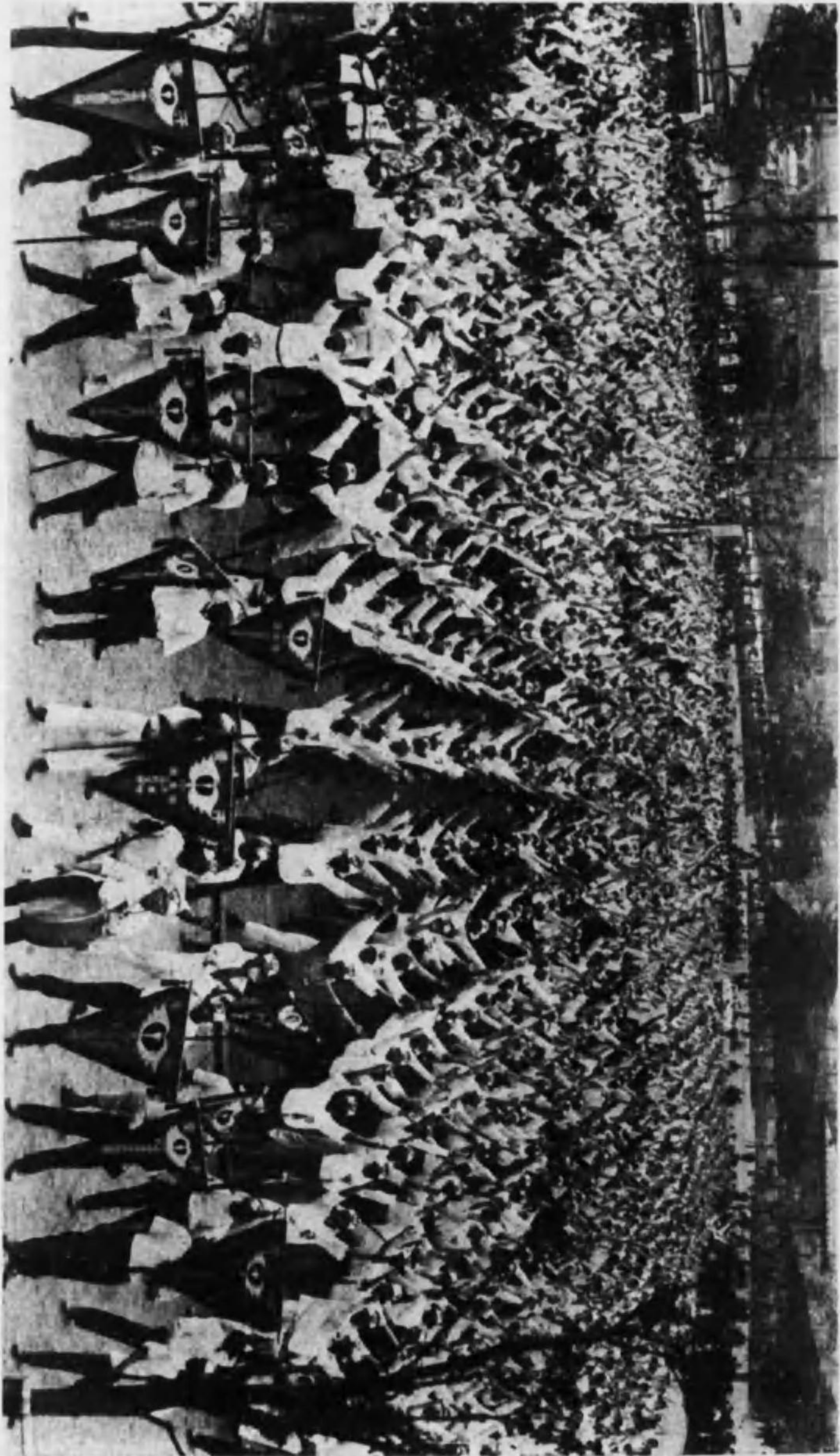
目次

修養團の精神……………(一)
 修養團の誓願……………(二)
 修養團の主義……………(三)
 修養團の信仰……………(四)
 修養團の着手……………(五)
 修養團の宣傳……………(六)
 修養團の結盟……………(七)
 日本の使命……………(八)
 日本は神國……………(九)
 嚴肅なる振舞……………(一〇)
 日本の現狀……………(一一)
 苦惱の人生……………(一二)
 歡喜の人生……………(一三)
 惡化主義者……………(一四)
 無信仰の人……………(一五)
 信仰と明魂……………(一六)
 宗教と講習會……………(一七)
 修養團の使命……………(一八)
 修養團近況……………(一九)
 修養團の事業……………(二〇)

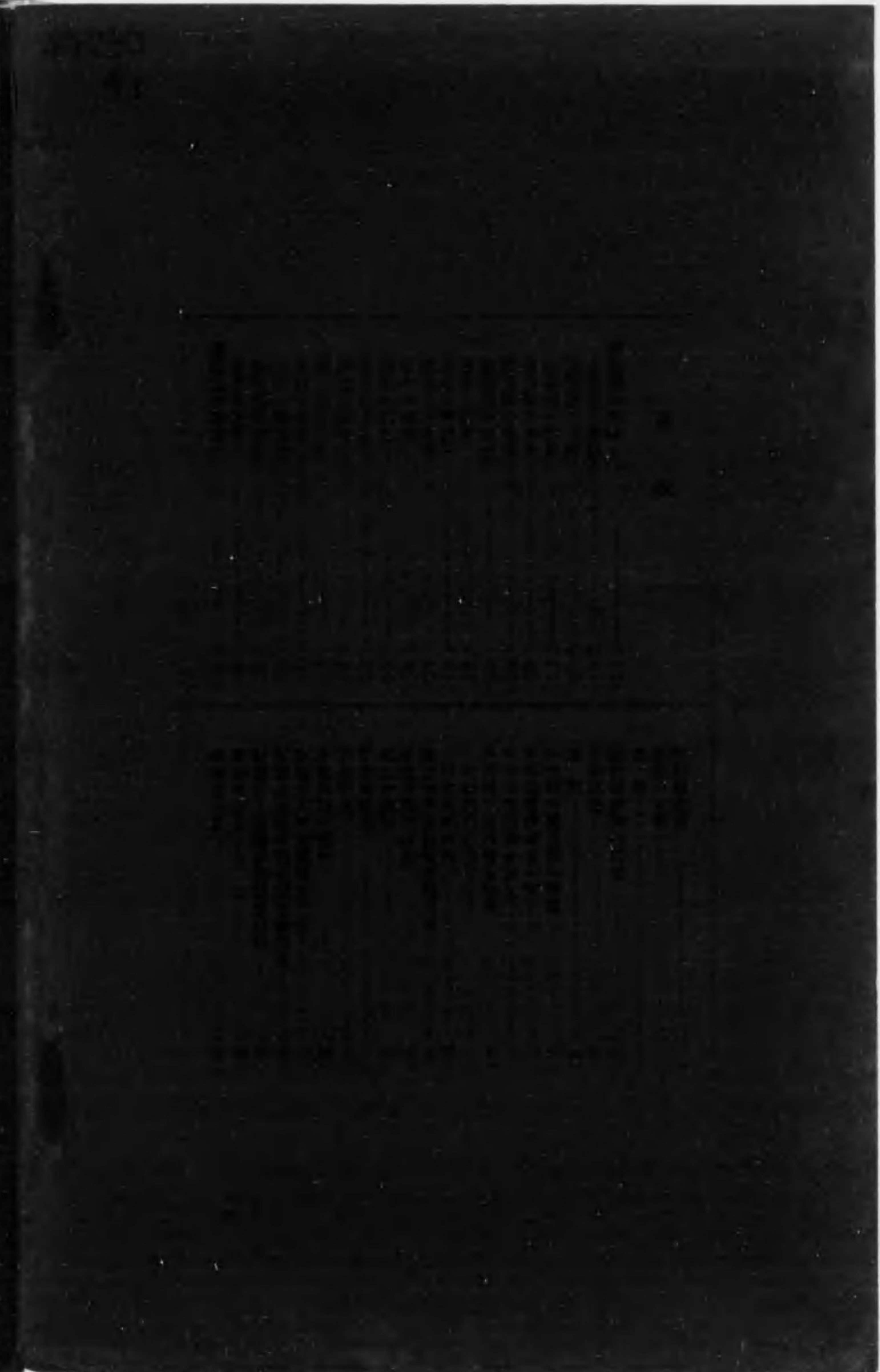
修養團概要……………(二一)
 沿革の概要……………(二二)
 光榮……………(二三)
 教化運動施行區域……………(二四)
 活動狀況……………(二五)
 團勢……………(二六)
 各府縣別團員數一覽表……………(二七)
 本部講習講演會一覽……………(二八)
 本部講習講演會狀況……………(二九)
 各團體主催講習會狀況……………(三〇)
 昭和四年の部……………(三一)
 昭和五年の部……………(三二)
 國力振興運動並團體訓練……………(三三)
 會館及宿泊狀況……………(三四)
 向上會概況……………(三五)
 社會事業部……………(三六)
 出版狀況……………(三七)
 全國各地の團勢……………(三八)
 財團法人修養團寄附行爲……………(三九)
 財團法人修養團後援會趣意書……………(四〇)
 財團法人修養團後援會規則……………(四一)
 後援會役員……………(四二)

露光量違いの為重複撮影

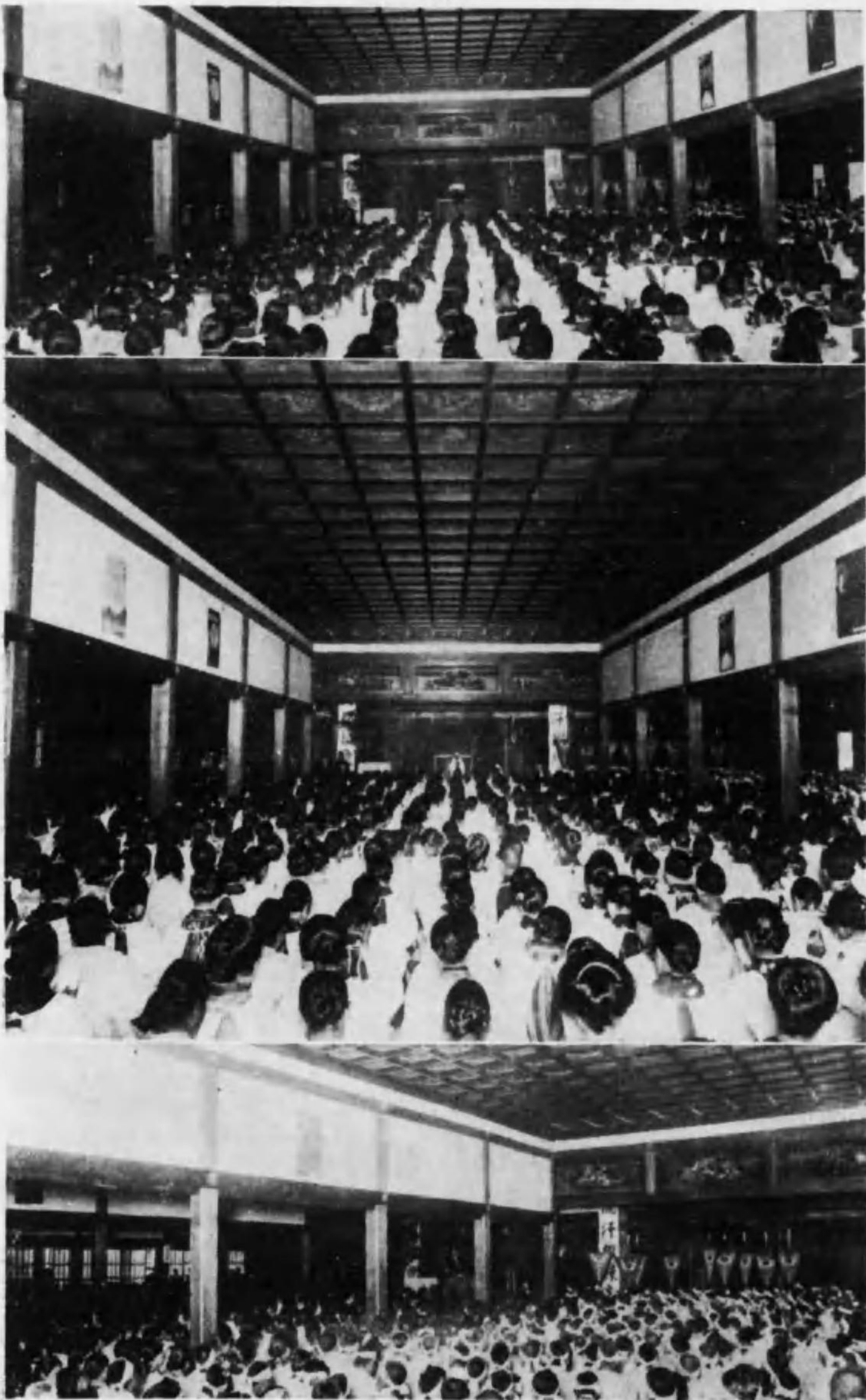
姿勇の會大員團西開團養修



景光の操體民團各千四るけ於に外屋の會大員團四開るたわわ開にめたがんせ念記を年五十二立創

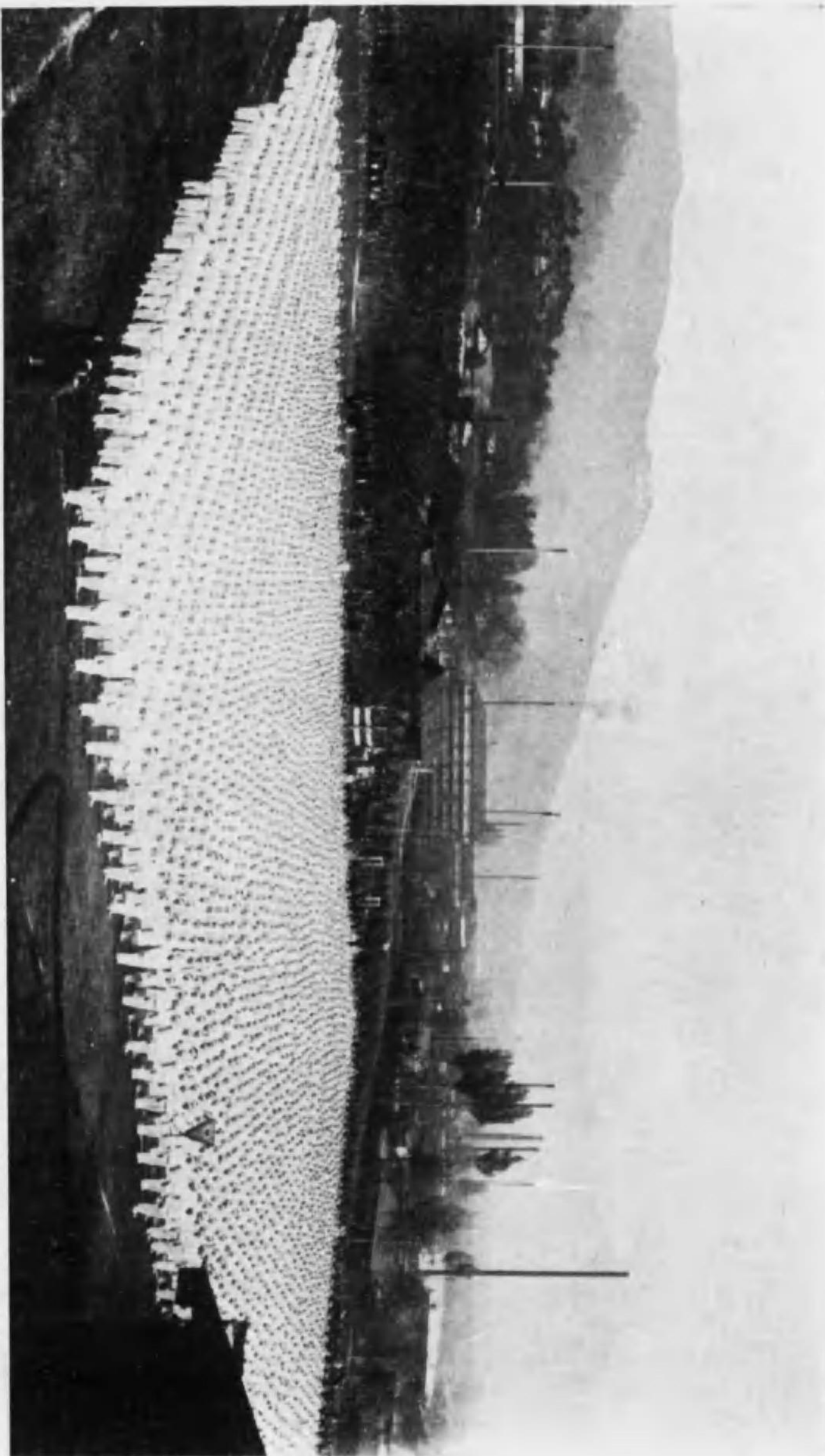


修養團中部團員大會の光景



上圖は平沼團長代理岸田理事團の訓辭代讀・中圖は赤坂講師指導
 下の「こゝろの力」朗誦・水打たつが如く演説の聴衆

修養團白色倫理運動の偉容



長野縣野田郡川岸村修養團會員紡績株式會社川岸工場・尾澤工場・野田支部・野田支部聯合會會員八百八十三名式光景

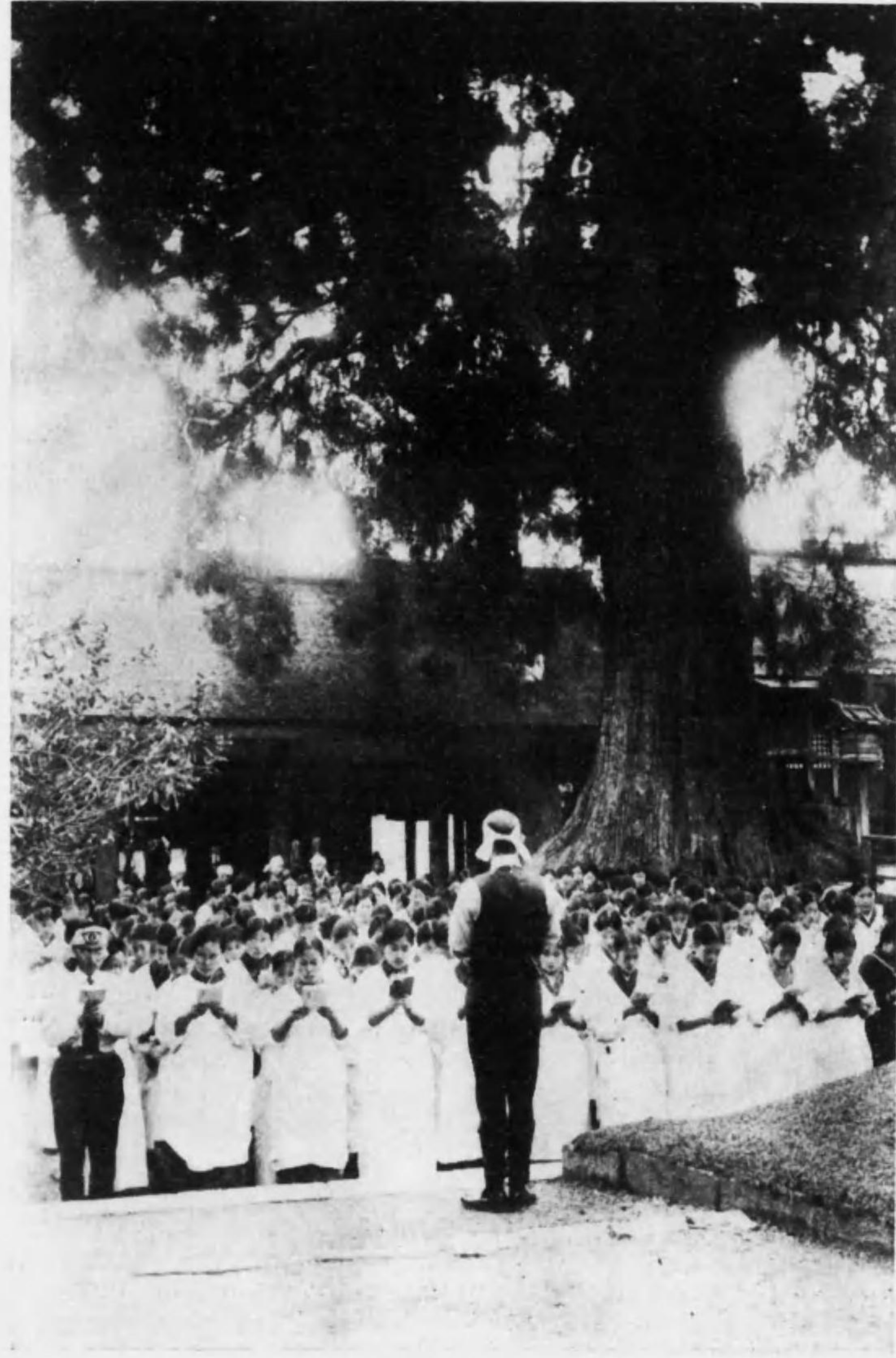


修養團の精神

(この一文はどんな方にもお列りになるやうにと祈りつゝ認めたのであります)



修養團婦人講習



奈良春日神社境内老杉の下に集り主任講師の指導を以て心くばりこゝろの力
を誦すことろをみらるに幽邃森・天の雲・地の靈・人の靈の合ふ光景

修養團の誓願

我が住む郷を善化美化して、明るい世界を顯現せようとするのです。
明るい世界とは、一人の争ふ者もなく、一人の怠る者もなく、總人が愛し合ひ、總人が汗き合ふ環境を申します。實に總親和・總努力の明るい世界を顯現することは、人心の要求であり、天地の公道であります。祖宗の遺訓であり、陛下の聖旨であります。

修養團の主義

我が修養團は、總親和・總努力の善風を作興する爲めに、同胞相愛主義、流汗鍛鍊主義を實行するのです。之を一言に汗愛主義と略稱して居ります。

汗愛主義は上より來る靈の躍動であつて、永へに生命を有し、争闘主義、享樂主義は、下より來る肉の衝動であつて、自己の骨を枯らし、靈を飢ゑさせるのみでなく、他人をも害ひ、社會を亂して、共に亡ぶべき約束であります。

修養團の信仰

磁石の針は凡て北に向ふやうに、人の魂は必ず光を仰ぐ性質でありますから、どんな悪人と雖も、高ぶりと貪りの汚れをさへ清め除きさへすれば、凡て明魂を顯現して、愛し得る喜びと、汗き得る力とを生ずるものであります。

(3) 人類は明るき世界を顯現する爲めに、生れたものであり、そして各自與へられた獨特の能力を伸ばし合ひ一品の使命を果し合ふ爲に、互に人格と職業とを尊重して、總親和總努力する時に、始めて總向上總幸福の喜びを招來し得るものであります。

修養團の着手

明るい世界は、明るい魂によつてのみ顕現されるものであります。いかにレールが布かれても、機関車が造られても、動力が無ければ汽車は走りません。魂が暗いなら、どんなに知識があつても、才能があつても、とても明るい世界を造ることは出来ません。

今日の行きつまりは、靈魂が飢ゑて居ることが原因であります。

國家の單位は、家庭でありますから、修養團運動の着手は

先づ家庭を明るくすることです。即ち親子、夫婦、兄弟が仲よくして、一人も争ふ者なく、主人も婢僕も、老人も幼者も、お互に出来るだけの仕事を勤んで、一人の怠る者もなくすることです。骨と肉を分けた家族さへ親和し得ぬ暗魂者が、どうして、平和の世界を造ることが出来ませう。

修養團の宣傳

家庭が明るくなれば、其次は隣りの家庭をも明るくするやうに、五魂聯盟を造ることです。

五魂聯盟とは、自分の家庭の周圍にある、東西南北の四家庭に、靈火を點することです。即ち一番氣の毒な人の涙を拭つて上げることです。涙と涙との通ひが、魂と魂との結盟となるのです。次に、盟契した同志と共に、隣りの御主人の魂を動かすことです。それが出来ぬ場合には、子供でも、奥様でも、僕婢でも、誰か一人を説得するやう、機會を造ることです。

或は自分の同級生、同職者、親友、一人でも多く同志を求めらるやう、常に心を用ひ、身を勞し、金と時とを献けて働くことが、人間として一番尊い奉仕です。けれども自分の本職を忽諾にしてはなりません。

斯くて隣家の五魂聯盟が成就したら、それ等の人々と協力して、自分の村や町の學校長、神官、僧侶、牧師等に相談して、其の方々に御願ひして、町村青年團、軍人分會、其他の團體の中心人物を集めて、町村主催の『明魂顯現講習會』を開くやう、町村長を動かすことです。

修養團の結盟

明るい世界を造るには、明魂が必要で、

その明魂を現はす修行が、『明魂顯現講習會』と申します。

明魂とは、

人間が地上に遣はされる時、『愛し得る魂』を與へられました。其の魂を名づけて明魂と申します。

魂が輝く時は、愛する者の爲めに働かずには居られません。我が住む里を理想郷にし度いと願ふなら、

我が住む里の中心人物が、汗と愛の行者となつて、人よりも親切に、人よりも働くやうになれば、其の周圍の人々も、皆その徳行に感心して、自分も「汗と愛」の行者となりたいものと、祈願するやうになります。

そして、自分から進んで明魂顯現講習會を受けるやうになります。町村の凡ての人が、明魂を顯現し、明魂の結晶を固めて、互に照らし合ふならば、どんなに難村でも、必ず明るい理想郷となるのです。

いくら善人があつても、互に孤立して、結盟を固めぬ時は、善の勢力が強大となりません。善人の勢力が弱いのは、結盟がないからです。半數以上の結盟さへ成就したなら、一町村、一團體を動かす勢力となり得るのです。

日本の大使命

(6)

西洋人でも、東洋人でも、悉く明るい世界を造る爲めに生れたものでありますが、殊に私共日本人は、「明るい世界の模範」を造る大使命を與へられて居ります。

それだから日本人は、一刻も早く愛し得る人となり、一日も早く働き得る人となつて、神の國と稱せらるゝ其の名に添ふやう、總親和・總努力の善風を作興するやう、努力せねばならぬのであります。

神の御心は大愛であります。「愛し合へよ、働き合へよ、そして總親和・總努力せよ」と諭し給ひました。

日本は神の國

神は第一番に、日本の國を明るき世界になし給はんとして、神の御子をお遣はしになりました。

神の御末が一天萬乗の

天皇陛下で在すのです。

神の裔が大君として臨み給ひ、神の御心に添ふ國民が住む國故、神の國と申します。

嚴肅なる攝理

自分勝手に神國と自稱しても、何の權威もありません。末子に生れながら、長男だと力んでも、誰も相手に致しません。されど、親があるから、子女があり、兄弟姉妹があります。

弟妹なるが故に價值がないわけでもなく、又兄弟ばかり親から可愛がられるわけでもありません。みんな親から愛せられ、みんなそれだけの價值があつて、甲乙の區別はありません。

されど兄弟は弟妹よりも早く生れ、父母の代理として弟妹を導くのですから、弟妹は常に遜つて従順に兄弟に仕へねばなら

ぬのであります。又兄弟は、親に代つて弟妹を愛育せねばならぬのであります。

これを因縁攝理と申して、神から定められた約束ごとですから絶対に服従せねばならぬことになります。一生涯兄弟に仕へることが不公平だと申す弟妹があるなら、父母は一時に五六人の子供を生まねばならぬことになり

それは出来ぬことです。それで、一番早く生れた子供が兄となり姉となるのです。これ皆神の御計畫であります。

日本が靈的に於ては、世界の兄弟として、神の御心を全同胞に宣べ傳へるやう使命づけられたことは、實に辱けないことではありません。

さればとて日本が、外國より特に神より愛せられ、特に價值があるわけではありません。只兄弟の責任があるといふだけで

日本の現状

神の御心を靈に受けて、愛し合ひ、働き合はねばならぬ日本人が、争ひ合ひ、怠け合つて居るなら、獸の國と申さねばなりません。

兄弟は親の心を奉じて、よゝ弟妹を善導するやう、精限り根限り働かねばならぬのに、靈の弟妹たる外國人と同様に、我儘勝手振舞をして、政黨政派の争ひや、労働資本の争ひや、官吏と人民との争ひなどに没頭するとは、何と淺ましいこととせう。親の心を知らずして兄弟争ひをする者を不孝の賊子と申します。天皇の御心に背いて、國民乖離することを不忠の亂臣と申します。亂臣賊子は悉く神の刑罰を受けて亡ぶべき約束であります。

どうして、こんな有様になつたのでせう。

(7) 「牛水を呑めば水化して乳となり、蛇水を呑めば水化して毒となる」と申すやうに、明現の人が學問や、藝術や、権力や、

(8)

金力を取得すれば、それは凡て薬となつて、明るい世界を建設する資本となるのです。

されど暗魂くらたまごの人が、それ等の力を取得すると、凡てが却つて毒となつて、暗黒世界を造る資本となるのです。

明治初年に、西洋文明を取り入れる必要に迫られたので、官民上下狂ふやうに科擧を研究するやうになりました。そして高等専門學校が幾つも幾つも建てられました。それ等の學生は、知識技能を啓發することのみ熱中して、一番大切な「明魂顯現」の修養を怠つたのです。ちやうど、蛇が水を呑むやうな結果になつたのです。其卒業生が官吏となり、教師となり、實業家となり、あらゆる方面の頭かしらとなつて、自分の持ち合せの、學問や、権力や、金力を濫用した爲に、下の者は皆上に習つて、知識のみを重んじて、魂の修養を輕んじ、権力、金力を獲得することにあこがれて、こんな悲惨な世の中となつたのです。

苦惱の人生

愛し得ざる暗魂は罪惡の根源です。罪は惱みです。亡びです。知識や、金力や、権力を所有して、一時は世間から羨まれる程の榮華を得ても、神に背き、大君の御心を惱し奉るやうな、暗魂者は、絶対に幸福の生涯を恵まれません。それは神の約束ですから、萬に一つも例外はありません。富巨萬を重ねても、位人臣を極めても、心の奥に惱みなやみがあつたら、何の幸福がありません。惱は骨をも枯らすのです。生命を失つたら、世界中の寶を所有しても何の役に立ちませう。

歡喜の人生

宗教に入つて活ける神を信じ活ける佛に仕へさへすれば、どんな惱みの生涯しんごうかいをも一轉して、新しく靈に生れ、古きものは一切棄てられて、更生の喜びを得るのです。

人心の要求もとめは愛し合ふことではありますが、明魂が曇つて居るから、ムシヤクチャするのです。ムシヤクチャするから、親子

けんかや、夫婦けんかや、兄弟けんかをするのです。世界中の人が、たゞの一人でもけんかをしたくない者はないのです。皆々仲よく暮し度いと願ひながら、それが出来ぬのです。それは魂が病氣をして居るからです。「愛し得ざる悲哀」に墮ちて居るからです。

又世界中の人がたゞの一人でも働き度くない者はありません。皆父母妻子の爲めに、我が住む町村、國家の爲め、骨身を碎いて働き度いと願ひながら、惰けたり放蕩はたごしたりするのは、魂が病氣して居るからです。この病魂を暗魂と申します。病氣を療なをすには醫者が必要のやうに、病魂を療治するには信仰が必要です。

惡化主義者

病魂者は、「此世は争闘だ、人は享樂を求めものだ」などと申して、争闘主義享樂主義を叫ぶ者もあります。されど、それは本心からではなく、皆病氣のせいです。或會社の争議委員が、毎日けんかの大將となつて居りましたが、歸宅の途中、自分の子供がけんかをして居るのを見て「けんかはするなよ、善い子はけんかなどせぬものよ」とねんごろに戒めて居りました。享樂主義を宣傳する者が、公會の席上で「酒は百藥の長」と叫びながら、歸宅後自分の弟を戒めて「若い時から酒など覺えては立身出世は出来ぬ。辛棒して、立派に成功して呉れ」と涙ながらに論じて居りました。

神は克己の自由を我等人間に與へられました。己に克つことが徳の始めです。神より來る靈の動きは、相愛主義、鍛鍊主義となり、獸より來る肉の動きは争闘主義、享樂主義となります。

無信仰の人

(9)

某大學の學生が「神などあるものか」と申しますから、私は「君が一番尊敬する人物は誰か」と問ひましたら、

(10)

「ワシントンと松平定信公」です。と、さらば
「ワシントンや、定信公は神や佛は無いと申したか」と聞いたら、
「皆信仰者だと聞いて居ります。」と答へました。
それで私は申しました。

「君が一番尊敬する人も神を信じ、世界の萬人から尊敬される聖者賢人は、東西古今一人の例外なしに神佛を信じて居るではないか」と申しましたら其學生は納得しました。

磁石の針が悉く北に向ふやうに、人の魂は凡て神に向つて居るのです。

明治大帝の御製を拜誦し奉る毎に、いかに敬神の大御心の切なるかを偲ばれるのであります。

〇目に見えぬ神の心に通ふこそ、人の心のまことなりけれ

一合目に立つ人には見えぬ景色が、二合目に登れば見え、二合目で見えぬ山川も、三合目に登れば見えるのです。十合目に登らねば全景は見えぬやうに、聖者賢人のやうに身心を清めて神佛に近づかねば、神佛は見えぬのです。一面や半面を見て、全體を見たやうな気がするのは人間の高ぶりの心です。

神が見えぬのは、神が無いのではなく、盲人は光が見えぬけれど光はあるのです。

波長を合はせねば、ラヂオが聞えぬやうに、信仰の波長を合せねば、神の靈波を感じ得ぬのです。

故に私共のやうに信仰の薄いものは、神の靈波を感じることさへ叶はぬのですから、神を見ることなどはとても出来ません。見えぬから無いのではなく、一合目に居るから見えぬのです。信仰が薄いからわからぬのです。だから、十合目に登られた聖者や、修養を積まれた賢人の教へに従ふことが最も安全な道であります。聖者賢人の足跡を慕うて歩んだ人は悉く喜びの世界に進み、これに背いた人は悉く悩みの世界に落ち込んだことは、歴史を見れば明らかにわかります。

信仰と明魂

電燈のスイッチを開けば暗黒になり、暗黒になれば、何物も見えません。

神が「愛し合へよ」とて與へられた明魂が、我愆の罪穢によつて曇りますと、神の靈波を受けることが出来ぬやうになります。ちやうど、発電所から電燈に通ずる電流を絶縁すれば、暗黒になるやうに、信仰の波長を合せぬから、靈波を受け得ずして暗魂となります。暗魂になるから、親が悪い、妻が悪い、誰が悪いと人を怨み、世を呪ふやうになります。

電流が通はぬから光らぬので、自分の魂が暗いから、人を責め度くなります。

輝かざれば闇を照らすことは出来ません。暗魂では「争ひ合ふ」より道がないのです。

電燈のスイッチさへ入れるなら直ぐに電流は通じて明るくなるやうに、信仰によつて神佛との縁を結べば、どんな人でも直ちに明魂が現はれて、生れ變つたやうに愛し得るやうになり、喜びの生命が躍り出して、總てが感謝となり、總てが面白くなり、親子仲がよくなり、兄弟仲がよくなり、一家が明るくなります。

宗教と講習會

誠の宗教を信じ、活ける神佛と縁を結べば、講習會の必要もないやうに思はれますが、悲しいことには、今日の日本は、とすれば誠の宗教から遠ざかり、宗教宗派が、互に繩張りを争ふたり、葬祭の儀式にのみ流れたりするやうになつたのです。

(11) 「縁によつて救はる」と申すやうに、基督教で救はれぬ者が佛教で救はれたり、佛教で救はれぬ者が基督教で救はれたりするのですから、自分が救はれた宗教を、他人にも勧めることは人情として尤もなことでありますが、他の宗教を罵つたり、他の信仰者を憎んだりすることは、神佛の御旨ではありません。「人もし我神を愛すと云ひて、其兄弟を憎まばこれ偽者なり。既に

見る兄弟をも愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛すること能はず。

神を愛する者は、亦其兄弟をも愛すべし」と聖書にあります。

又佛法の教へには、

「佛は十方衆生を我子として慈む。衆生は皆兄弟なり、佛の慈悲は十方に普く働き給ふ。故に佛の御心に添ふ唯一の行は、十方衆生を親切にすることなり。十方衆生を敵とするは、佛を敵とすることなり。」と申されてあります。

佛書に「一切衆生は皆我子なり」

聖書に「我等は一つの父より生れたる兄弟なり」

と明かに記されてあるのを見ても誠の宗教は互に愛し合ふべきであつて、決して憎み合つてはならぬのであります。

然るに、佛敎信者が、耶蘇敎信者を憎み、耶蘇敎信者が佛敎信者を罵り、或ひは共に卑み合ふが如きは、誠の信仰がないからです。

神を敬ひ、佛に仕へることは、大切なことであり尊いことですが、活ける神佛は「神に仕ふる前に先づ兄弟互に愛し合へよ」と教へられてあるのです。

然るに、同胞相愛の實行をおろそかにして、朝から晩まで葬式や祭禮の儀式のみに没頭して居る、神官、僧侶、牧師がおります。斯くて、誠の宗教は其生命を失つて、宗教宗派の争闘となり、又は生活の方便となり、神の御心に遠ざかつて、形式のみを重んずる傾向となつたのです。

それで或る家庭の如きは、父が佛敎を信じ、母が天理敎を信じ、長男が神道に入り、長女が耶蘇敎に入り、互に他の宗教を罵り合つて、一家の平和は破れ、其の弟や妹は、何れに就いてよいか、迷ひ悩んで居るのです。

總親和總努力は神の道でありながら、宗教家自身が互に反目乖離する實狀では、とても神の國日本の礎を固めることが出来

ません。

自分の國さへ總親和が出来ぬ有様で、どうして、世界遍照の大使命を成し遂げることが叶ひませう。

現在の日本に於ては、既成宗教を旗印としては、遺憾ながら國民の總努力が成就せぬのです。

佛敎を標榜すれば基督敎信者が集らず、基督敎を標榜すれば佛敎信者が参りません。互に愛し合ひ共に携へ合ひて、明るい世界を造らねばならぬ。天子の赤子八千萬人の兄弟が、修養上にも、事業上にも反目離反して、一つ心になり得ぬことは誠に悲しい極みであります。

茲に於て、『明魂顯現講習會』が開始されたのであります。

この講習會は、既成宗教の何れにも偏せず、何れの形式にも拘泥せず。

そして活ける神佛の御心に觸れ得るやう、祖神の垂示と建國の精神とを基根として組みたてられて居るのですから、何れの宗教信者も、受講することが出来、又盟契することが出来るのです。

故に此講習會は、國民の總親和總努力の善風を作興して、

神の國日本を完成する上に最も適切な國民的行事と稱せらるゝに至つたのであります。

此講習會によつて、

これまで斷じて神佛に近づかず、之を忌み嫌うた者も始めて宗教の必要を悟り、誠の信仰生活に突入して、新しく靈に生れた者が少くありません。一面から見れば、修養團の講習會は信仰の世界に進む案内者の如きものであり、又は他宗を罵る信仰者の邪見を碎いて、總親和の襟度を與へる刺戟となつて居ります。

修養團の使命

「修養團の運動は、信仰を標榜せぬから生命がない。」と卑下する者もありますが、假りに修養團は病氣を直す醫者の資格がないとしても、醫者の許に病人を運ぶ看病人の役をつとめて居ります。看病人を無視したり、又は看病人を悉く醫者にせようとしてもそれは神の御心ではありません。

第一他人の批評をすることが、神の御心ではありません。眞に愛し得る魂が躍る處に生命があるのです。

修養團の汗愛主義に生きる人は、事實上に於て家庭を明るくし一村を明るくし、一工場、一學校を明るくしつゝあるのです。其事績があればこそ、修養團の講習會は一ヶ年に七百回も九百回も開かれて汗愛主義は村々町々に廣まつて行くのです。實に修養團の使命は宗教宗派の反目により、政黨政派の争闘により、労働資本の軋轢により、互に離れつゝある魂を集めて、總親和總努力の明るき世界を建設するにあります。これ修養團運動を「七色融合の白色倫理運動」と稱せらるゝ所以です。(昭和五・五・一一、鴨光を仰ぎつゝ誌す 蓮沼生)

修養團の近況

一、市電講習會 交通従業員、通信従業員は實に國家の動脈なり。之が明魂を顯現し結盟して、總努力の奉仕的善風を作興することは急務中の緊要事たり。

東京市電局長は、深く思を致し、廣く方策を求められしに、大阪市電、京都市電、横濱市電等が相次いで修養團講習會を開き、漸次従業員の親和協力する實状を見聞せられ、管下九千名の従業員を受講せしむる方針を定め、三月一日より第一回講習會を開始し、既に第五回を終了したり。争闘主義を標榜する團體の幹部は、該講習會を破壊せんと謀り、受講生に交入して幾度か妨害を試みたりしも、本團の指導原理は、神意を奉體する最高眞理なるを以て、會員悉く汗愛主義に

共鳴し、一人も煽動に乗らざりしのみならず自らも更生共鳴の喜びに導かれたるは、これ神明の加護によることを感謝す。該講習會は、今年中九回連続する豫定なり。

二、鐵道講習會 滿鐵従業員講習會の成績は、汗愛運動の勃興となり、鐵道従業員を中心として、北はハルビンより旅順に至る主要驛三十一ヶ所に支部設立され、大正十五年十月一日全滿洲團員大會を大連に開くや、畏くも閑院宮載仁親王殿下の台臨を仰ぎ「力強く思ふ」との御辭を賜はるに至り爾來相次いで講習會を開きつゝあり。

朝鮮に於ても、大正十四年全線各驛長、機關區長及其助役主任等の講習を開きしより以來、各驛受講するもの多く、爲めに各驛員の親和努力の善風起りて、乗客に對する待遇上、貨物取扱上、親切を極め、消耗品の減少、缺勤遅刻者の激減等、各方面に好成績現れて、チリ公使が「各國を視察したるも朝鮮鐵道の如く、時間の正確なる、乗客に親切なる、各驛各車室の清潔なる其の比類を見ず」と歎賞せしめたり。

江木鐵道大臣は茲に見る所あり、先月大阪鐵道局に於て第一回講習會を試みたるに、其の成績極めて良好なりしを以て、連續的に試みることとなり、四月十五日よりは愈々東京鐵道局に於て開催することとなりたり。

三、逓信講習會 中央電信局講習會は三月十二日より、引續き千餘名の受講生を出し、支部團員の結盟益々堅く、工務課講習會、電話交換手講習會等相次いで開催せらる。

特に一昨年東京、横濱一、二等郵便局八十三局の講習會を開催してより、各局競ひて支部を設立し、中央郵便局を始め神田、京橋、淺草、白金局等皆支部發會式を舉行せるもの既に十五ヶ所、四月十六日遂に逓信聯合會の發會式を擧げ、波多野局長會長となり、吉村庶務課長の如きは汗愛行者として各講習會に奉仕されつゝあり。大阪逓信局に於ても急速的に團員の結盟を見つゝあり。

四、内閣印刷局講習會 杉局長の英斷と矢野印刷部長、白石抄紙部長の受講により、今や七百名の團員を起たしめ紙幣、

印紙、切手、葉書は悉く汗愛同志の手に依つて印刷せられつゝあり。

五、陸海軍工廠講習會 海軍次官山梨中將が、躬を以て本團講習を開催せられしより、毎年全海軍工廠に講習會を開き受講生既に五千名に及び、支部十三箇所に至る。其成績は幹部將校の満足する處となり、遂に海軍省内に聯合會を設置せらるゝに至れり。

陸軍に於ても宇垣大將、白川大將の了解あるのみならず、和田中將、岩井少將、小野寺少將等の受講せられたる各將校の紹介によりて、之を陸軍部内に試みることとなり昨年被服廠に於て、大阪、東京、交互に開催せられつゝあり。

六、八幡製鐵所講習會 當労働部長田尻五氏が本部講習會を受けられてより「労働者指導原理及方法として最も適切なり」と確信せられ、昭和四年度に於ては工長其他中堅工手の講習を開くこと七回、各工場の工長悉く汗愛主義に共鳴し、大小二百七十七工場悉く支部を設立せんと自發的計畫中なり。三月二十九日は平沼團長臨席の上製鐵所聯合發會式あり、千八百名悉く白衣の團装を以て結盟式を舉行したり。二萬八千の従業員が總努力の日近かるべし。

七、片倉組講習會 社長片倉兼太郎氏は、福島縣郡山市の日東紡績が修養團講習會開催以來其成績良好なるを見、昨年十一月三日全國五十八社の幹部を招集して講習を開かれたるに、受講者皆感嘆して各社に支部を設立し、汗愛運動を進展せしめんと誓ひ、爾來半ヶ年に至らずして五十八社は漸次奮起するに至り、諏訪の本社を始め支部發會式を擧ぐる處續出した。殊に九州十一社は悉く支部設立され、四月三十日熊本に於て、聯合會を發會し、平沼團長を迎へて結盟を固めたり。純一至誠の凝る處靈火點す。

八、九州教化總動員講習會 小倉市に於て開く、各地中堅人士二百三十二名、三分の二は校長、村長、工場長等の支配階級にして、受講者の平均年齢三十七歳、多年靈的運動を求めらるゝ者、悉く共鳴せり。

昨年十一月より總動員講習を開くこと八回即ち (1)關東地方を東京にて (2)北越地方を金澤にて (3)東北地方を福島に

欠

欠

(33)

十九日—廿一日 福井製絲分工場女子青年團講習會
廿四日—廿七日 長崎縣教育會教育者講習會
二十六日—四日 鹿兒島縣排宿郡聯合青年講習會
一日—三日 臺灣新竹州大溪郡講習會
五日—七日 臺灣龍井床修養講習會
七日—九日 臺灣豐原郡講習會
八日—十日 臺灣岡山郡修養講習會
十一日—十四日 臺南州女子青年講習會
十八日—廿一日 花蓮港廳講習會
二十日—廿二日 臺灣玉里修養講習會
廿二日—廿四日 花蓮港婦人講習會

◇三月中

一日—四日 東京市電氣局從業員講習會(四回)
五日—八日 同
十一日—十四日 東京市電氣局講習會
十五日—十八日 同上
一日—五日 大阪市電氣局講習會

一日—三日 福島縣山根支部講習會
五日—七日 東京遞信局工務課講習會
六日—八日 岐阜縣武儀郡青年幹部講習會
十一日—二十日 東京中央電氣局連續講習會
十一日—十七日 大阪遞信局講習會
十二日—十四日 岐阜縣稻葉郡青年講習會
十五日—十九日 高知縣中野婦人講習會
廿九日—卅一日 滋賀縣蒲生聯合會講習會
十五日—十七日 靜岡縣三ヶ日青年講習會
十六日—十九日 廣島縣御調郡青年講習會
十七日—十九日 靜岡縣安倍郡聯合處女講習會
二十日—廿三日 教化總動員諸會社聯合講習會
廿一日—廿三日 靜岡縣榛原郡萩間講習會
廿二日—廿四日 八幡市主婦講習會
廿六日—卅一日 和歌山縣聯合會講習會
廿六日—廿八日 兵庫縣聯合會中堅婦人講習會
廿六日—廿九日 長野縣原支部聯合講習會
廿七日—廿九日 兵庫縣西谷全村總動員講習會

- 廿六日—卅一日 徳島縣勝浦郡教育會講習會
- 廿八日—卅一日 中部聯盟婦人講習會
- 三十日—十日 長野縣上伊那郡總動員講習會
- 卅一日—二日 岡山縣千屋講習會

◇四月中

- 二日—四日 香川縣清水醬油會社講習會
- 三日—八日 岡山縣婦人講習會
- 五日—七日 岡山縣婦人講習會
- 八日—十一日 住友電線勞務者講習會
- 十日—十三日 宇部市聯合會講習會
- 十一日—十三日 長野縣小口組修養講習會
- 十二日—十四日 大阪聯合會講習會
- 十日—十三日 京都府船井郡戶主並婦人講習會
- 十四日—十六日 兵庫縣朝來郡講習會
- 十五日—十七日 長岡北越製紙會社勞務者講習會
- 十五日—十八日 東京鐵道局工場講習會
- 十八日—廿一日 小倉市修養團講習會

- 二十日—廿三日 大阪名古屋鐵道局主催講習會
- 廿四日—廿八日 三菱彦島造船所勞務者講習會
- 廿五日—三十日 淺野セメント會社北海道支店講習會
- 廿六日—廿九日 兵庫縣揖保郡三支部講習會
- 廿六日—廿九日 甲府聯合會講習會
- 廿一日—廿五日 京都府聯合會講習會

國力振興運動並に團體訓練

大正十二年帝都の大震災ありたるに際し、一は其直後に燃發せられたる精神作興の詔書の御趣旨を永久に銘記するため一は震災に於て嘗めたる苦難を忘れざるため、兼ねて非常時に際する團體の訓練を目的とする一種の記念事業としての行事を、震災後滿一年の記念日たる大正十三年九月一日を期して實行し、之れを「國力振興運動並に團體訓練」と稱し、毎月一回第一日曜日の黎明を期し、都下團員明治神宮に集合して、左の行事を行ひたり。

- (一)明治神宮參拜、(二)詔書捧讀、(三)團體訓練及國民體操、(四)訓辭、(五)國歌合唱。

爾來五年、嚴冬風雪の晨、炎熱砂塵の時、如何なる天候と雖も必ず右の行事を實行し、既に五十七回を重ねるに至れり、而して毎回多數の在京團員と嚴肅なる軍人諸士とは奮つて參加され、是等軍隊と團員とが融和合同して團體訓練を行ひ、自ら剛健な氣象の發揮となり、誠にたのもしき限りを盡しつゝあり。

この運動行事は、今後いつまでも繼續して實行せんと欲す。然れども國民精神作興に關する詔書を奉ずる、總親和・總努力の運動は、決して修養團のみの私すべきものに非らずと信じ、今後は官民一致、舉國的大運動として、益々發展せしめんと欲す。

以後毎月第一日曜日拂曉、明治神宮社前に平沼團長以下團員集合、國力振興運動並に團體訓練を行ひつゝあり、本年度までにすでに五十六回を實施するに至れり。

會館及宿泊狀況

東は神宮外苑に聳ゆる明治天皇頌徳繪畫館西は代々木、大久保一圓の平野北は綠樹鬱蒼たる新宿御苑に接し、南は祥氣

天に漲り四時雪を帯ぶ富士靈峯を背に明治神宮の得も云はれぬ幽靜の森が横はつてをります。

而して本館の前に交又せる七條の大道は偶然にも吾が七色融合の白色倫理運動を表徴するものゝ如く、これ聽て本團の威風四海を拂ひ世界遍照の勝利を默示するものと思ふ時轉々會心の笑を禁じ得ざるものあります。

毎月向上會(十一日)、通信局關係者修養會(十六日)及各種の修養會に利用したる外修養團支部講習會及支部發會式並に外部諸團體に對して特別貸與し盛に活用されて居ります。

宿泊所には毎日東は北海道より西は滿洲、臺灣に至る各地の同志が多數宿泊され、毎朝懇談會を開き、同志盟契の好機となつて居ます、一泊七十錢をお受けして居ます。

向上會概況

明治四十四年二月一日修養寄宿會として第一向上會を創設し爾來漸次増設して第六向上會を設立するに至りたるも、偶々大正十二年の關東大震災火災の爲め第一、第五以外の各會は閉塞したり。而して最近に至り向上會再興の氣運起り、現在

第三、第四、第六を復興し、第二、第七は目下復興準備中なるが、各舎共に入舎志願者多く常に満員の状態に在り。

各向上舎共に舎生は専門學校程度以上の學生のみにして、

何れも模範的の生活を爲しつゝあり、即ち全部玄米食にして、

菜食、一日二食、朝は早く全員一齊に起床して、體操美化作

業、靜座遙拜朗誦の朝禮をなし、炊事は舎生の當番にて之れ

を行ひ、傭人を用ひず、冬も多く火鉢を用ひず、修養鍛鍊の

日常生活を爲し、本團主催毎月の向上會及國力振興運動團體

訓練には全員出席する等全く修養團の爲には獻身率仕をせら

れ、學事に於ては努力勉勵し成績頗る良好にして、放縱に流

れんとする帝都學生の中に巍然として、異彩を放ち居れり。

かゝる勤儉力行の結果一ヶ月の費用は、食費、舍費、雜費一

切にて十五圓乃至十六圓を出てざる状態なり。

此の鍛鍊的理想生活が漸次他の堅實なる學生の共鳴を起し

前記の如く次第に擴張發展の趨勢にあるは國家のため慶賀に

堪へざる所なり。

昭和四年二月より昭和五年一月末に至る一年間の事業成績
左の如し

一、吾嬭汗愛寮(内地人勞働者簡易宿泊所)

有 料 一人一日金十五錢也

宿泊延人員……………一三、八六〇人

二、野方汗愛寮(朝鮮人勞働者收容所)

無 料 —

宿泊延人員……………一〇、八五〇人

三、職業紹介取扱件數……………九二五件

四、人事相談件數……………二六五件

五、療病者取扱診療數……………一、一二〇件

六、御下賜金に依る貧困者救済に關する件

皇后陛下御着帯御内祝としての御下賜金に依る貧困者
救恤食券を九月十四日より同二十日迄約六百家族に配
贈す

區域、吾嬭町、小松川町、奥戸町

七、御下賜金に依る歳末無料診療の件

皇后陛下より金壹萬圓御下賜に基く歳末貧困者無料診
療に關し、吾嬭町方面の居住診療を當部に於て爲す

社會事業部

療に關し、吾嬭町方面の居住診療を當部に於て爲す

一、期 間 十二月十七日より二十九日迄

二、扱 班 前期十日間、淺草寺院
後期二日間、朝日新聞社診療班

三、扱患者數 三千一百餘名

八、東京朝日新聞社歳末同情週間に關する件

同會輔導員として同情週間の義捐金の一部よりなる

「のし餅」を吾嬭町方面細民家庭へ參百枚配給す

九、東京日々新聞社より寄贈の「のし餅」配給の件

大阪の或る篤志家より東京日々新聞社を経て贈られた

る「のし餅」三千枚之内當所主任へ委託配分の一千六百

枚を左記へ配給せり

(イ) 吾嬭町方面 (ロ) 野方町方面

(ハ) 三河島方面 (ニ) 日暮里方面

(ホ) 黒龍會 (ヘ) 相愛會等へ

十、社會調査に關する件

政府に於て救護法實施に伴ふ準備として都下の救護法

適用貧困家庭調査に關し府下吾嬭町方面へ府より派遣

の調査員四名指導の爲め其の囑託を府知事より十二月

二十日付を以つて尾形榮造任命せられ三月末日貳千八

百世帯の調査を了す

出版狀況

現在本團より出版せる圖書左の如し

□光を仰ぎて……………蓮沼門三著……………定價一圓 送料六錢

一讀人生のあらゆる不平、煩悶、苦惱、釋然と解け、萬人悉く歡喜の世界に蘇り得る。

□救國運動と教化總動員……………蓮沼門三著……………定價二十錢 送料四錢

教化運動者の血涙史で教化總動員を機とし主幹が病中の奉仕として整理出版された書。

- 眞人生の基調……………牧野 秀著……………定價一圓 送料六錢
- 人生のほんとうの生き方、修養園倫理運動、救國運動の進み方、汗愛行者の全國實例を明かにす。
- 白百合の如く……………竹内 浦次著……………定價一圓 送料六錢
- 淡紅色に銀星輝く飛び付くやうな装幀で、全篇爽やかな情操と温かい生命に満つ。
- 生れ更る喜び……………蓮沼 門三著……………定價十錢 送料二錢
- 本書出づるや、涙の家庭を救ひ、内争暗黒の工場、學校を救ひたる事實枚舉に迫なし。
- 内にかをる心……………竹内 浦次著……………定價一圓 送料六錢
- 「白百合の如く」の姉妹篇、清く氣高く美しき情操を淨化する藝術的價値豊かな良書である。
- 青淵先生餘香……………瓜生 光村著……………特價一圓 送料六錢
- 修養園と澁澤子爵との關係を藝術寫眞と解説文章で現はした絶美高尚な名著である。
- 永遠の光……………瓜生 光村編……………定價一圓 送料六錢
- 故森村市左衛門翁の言行録で翁の輝ける一生の言と行とを網羅した永遠に光を與ふる書。
- 汗愛稻作法……………梅原 育二著……………定價八十錢 送料六錢
- 四俵の收穫を得る田から六石の收穫を得る秘法を、著者自らの深刻な體驗事蹟より編む。
- 活ける聲……………田尻、森村、澁澤、後藤四氏共著……………定價六十錢 送料二錢
- 如何に生くべき乎、之れ千古の迷題なり、迷ふ勿れ本書は必ず釋然その道を示すならん。
- 大國民讀本……………林 平馬著……………定價一圓 送料六錢
- 蘇峯學人曰く「此書が天下に向つて雲行雷轟以て我が皇化を裨補せんことを希ふ」と。
- 此の人を見よ……………山田 司海著……………定價一圓 送料六錢
- 金原明善翁實傳を輕快なる名文ですみからすみまで實益を與ふる様に編んだ有益の良書。
- 處世の大道……………澁澤 榮一著……………特價一圓五十錢 送料十八錢

- 八十九年の子爵の全班を網羅する一千二十頁の當代隨一の書、團員に限り特價で提供。
- 病める社會……………椎名 龍徳著……………定價一圓八十錢 送料十錢
- 日本全土に響きわたつた「生きる悲哀」の姉妹篇、血と涙にうるむ眞實の社會描寫である。
- 恩寵の生涯……………好地 由太郎著……………定價一圓 送料六錢
- 大罪惡の肉魂が、靈の光、愛の力に依り更生躍進し聖徒の生涯に入つた著者の一代記。
- 常識百科字典……………藤本 勇著……………定價二圓 送料十二錢
- 進歩の目まぐるしい現代では死知識と活常識とがある、活常識を集めたのが此書である。

修養園圖書

<ul style="list-style-type: none"> ▲第一輯 修養園の精神(蓮沼門三述) ▲第二輯 聖戰の陣頭に立ちて(牧野秀述) ▲第三輯 合掌の生活(竹内浦次述) ▲第四輯 精進の生活(嶋芳太郎述) ▲第五輯 食物と健康(二木謙三述) ▲第六輯 修養園の使命(平沼騏一郎述) ▲第七輯 道は通きにあり(牧野秀述) ▲第八輯 長壽法(澁澤菊太郎述) ▲第九輯 春光の如く輝け(竹内浦次述) ▲第十輯 さゝぐる魂(蓮沼門三述) 	<p>定價各十錢 送料三十錢 で二錢 百部以上は 送料不要</p>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> □ 心の力……………小林 一郎著……………定價二十錢 送料二錢 □ 心の力講義……………内野 台嶺著……………定價三十錢 送料二錢 □ 體操圖解……………松元 稻穂著……………定價十錢 送料二錢 □ 同掛圖……………松元 稻穂著……………定價二十五錢 送料四錢 □ 明治天皇御製集……………岩永 淳太郎著……………定價一圓 送料六錢 □ パレア……………弘中 つち子譯……………定價九十錢 送料六錢 □ 健康讀本……………松元 稻穂著……………定價一圓三十錢 送料六錢 □ 家計簿……………林 平馬著……………定價一圓二十錢 送料十錢 	<ul style="list-style-type: none"> □ 心の力……………小林 一郎著……………定價二十錢 送料二錢 □ 心の力講義……………内野 台嶺著……………定價三十錢 送料二錢 □ 體操圖解……………松元 稻穂著……………定價十錢 送料二錢 □ 同掛圖……………松元 稻穂著……………定價二十五錢 送料四錢 □ 明治天皇御製集……………岩永 淳太郎著……………定價一圓 送料六錢 □ パレア……………弘中 つち子譯……………定價九十錢 送料六錢 □ 健康讀本……………松元 稻穂著……………定價一圓三十錢 送料六錢 □ 家計簿……………林 平馬著……………定價一圓二十錢 送料十錢
--	--

□愛 汗 歌 集	修	定價二十錢	送料二錢
□ムツソリーニと其思想	高 島 素 之 著	定價五十錢	送料四錢
□不良兒とその指導	椎 名、近藤二氏共著	定價一圓二十錢	送料六錢
□昭 憲 皇 太 后	椎 名 龍 徳 著	定價三十五錢	送料四錢

全国各地の團勢

修養團は大正十年頃一時團員七萬に達したことがあつた。併し、當時の團員の殆んど全部は二十歳前後の青年であつた。青年は動もすれば熱し易くして冷め易い。又、世間の苦勞を幾らも経て居ない青年には、修養團の深遠なる精神が十分に分らず、從て之に對する動かぬ信念が出来て居ない傾きもあつた。偶々、大正十二年の大震災で團員名簿全部を焼失した爲め、其後自ら進んで團員に登録を申込んで來たものは、僅に三萬しかなかつた。そして全國各府縣を通じ團勢沈靜し活氣を呈せるは僅に關西の諸府縣と。新潟、福島二縣と朝鮮、滿洲位であつた。

併しながら、今にして想ひ起す、大震災直後大阪にて、全國各府縣の同志が集り本部復興協議會を開いたとき、詰襟小

倉服の連沼主幹が云はれた。『自分が本部の焼け跡を視察して居ると、灰燼焦土の中に、只一株のダリヤだけが、青々と芽を伸して居るのを見た。あゝ、生命あるものは、如何なる場所にあつても伸びる。我が修養團に生命があるならば、如何に大なる打撃を蒙つても、必ずや再び榮える日の來ること確信する』と、果せるかな、間もなく再び全國的に勃興の氣運に向ひ、漸次各府縣の團勢復興を見、團員數も次第に増加し、昨年初、約九萬が、一年に約四萬を増して、十二月末現在數十三萬二千六百〇九名に達し、現在は十五萬を超過することとなり、準團員の如きは殆んど其の數倍に上つて居る次第である。そして團勢不振の府縣が續々勃興し、全國に互る隆々たる盛況、實に快心に堪へず、踴躍措く能はざるものがある。

◆北海道 北海道は二年前迄、殆んど見捨てられて居

る様な状態であつた。團員數は極めて少く講習は殆んど開かれず、いつになつたら團勢が及ぶか見込のつかない様であつた。然るに昨年より俄然として團勢勃興し續々支部の設定を見、活氣に充ちたる所に、十一月、教化動員本部講習を札幌に於て行ひ、道廳の甚大なる應援の下に全道の有力者二百三十六名を集め、本團精神を深刻に傳へたるを以て、茲に強き根基を扶植し、團員も五千を超過するに至つた。

◆東北 東北地方の中心福島縣は、其後益々勃興、殊に日東紡績、片倉製糸の新興勢力は全縣下の團員を奮ひ起たしめ今や團員數六千五百に達す。昨秋福島市に開催された教化動員東北講習を好機として、愈々縣聯合會の設立を企畫せられ、近々發會の運びとなつた。福島縣に次ぐ秋田縣は、熱烈なる同志諸氏依然として苦心奮闘を續け、團員も一千二百に達す。山形縣は最近復興の氣運に満ち、今や團員數秋田を凌駕し一千三百となつた。今夏開かんとする羽黒山の講習は本縣團勢の一大躍進を來すであらう。

(41) ◆關東 輦轂の下、東京の團勢が振はなかつたのは多年の憾みであつたが、時期は來た。近年海軍省、逓信省、内閣印

刷局、東京市電氣局、陸軍省、鐵道省、其他の各官廳部内、及び栗原工場、大日本紡績、三菱製紙、淺野セメント、東京電氣、其他幾多の大會社に於て頻繁に講習行はれ、同志激増、支部の數三十三に達し、東京聯合會は新年勢頭陳容を立て直し、新興勢力を悉く包含して帝都の修養團聯合會たるに恥ぢざる活動をなすつゝある。團員の數も今や一萬三千、全國第二の勢力となつた。最近更に新しき方面の大官廳、大會社に進入する計畫あり、全國第一となるの日も近いかと思はれる。神奈川縣は横須賀の海軍を根據とし、横濱、浦賀等の工場を主とし、最近淺野關係各工場及横濱市電氣局に進展し、團員全國有數の勢力となつた。新興の意氣最も旺盛なるは群馬縣にして、團員二千近く縣聯合會の設立を見んとす。栃木縣は團員一千に過ぎざるも、那須郡の郡司間多氏、佐藤菊一郎氏等、涙と汗を揮つて栃木縣聯合會を設立せんと猛運動を開始して居る。埼玉、茨城も千八百と千六百の團員を持つて居る。

◆中部 中部聯盟は愈々偉大となり、所屬の愛知は最近縣聯合會成立し、三重、岐阜の二縣も各々縣聯合會組織の期近づく。團員數は愛知七千、三重二千五百、岐阜二千五百、長

野縣も最近團勢急進し、長野附近、松本附近、伊那、木曾、何れも勢力あり、同志三千に達す。静岡縣は全縣下の復興の意氣尙十分と云ひ難きも、全縣教化の中心静岡師範は徹底的に修養團化して熱烈なる同志が満ちて居り、引佐郡方面は復興の先驅をなして居るから、遠からず熾火が燃えて來るであらう、現在の團員一千六百名、

◇北陸 修養團の北の重鎮新潟縣聯合會は、終始一貫力ある活動を續け、最近猛烈なる闘士揃ひ、運動愈々熾烈なり、團員數四千六百。一年前迄極めて影うすかりし石川縣は、一年の間に急激なる躍進をなし、今や團員千九百、熱烈有力なる同志多數揃ひ、將來の堅實なる發展火を見る様だ。

◇近畿 全國第一の團員數を有するは一萬九千の兵庫縣、全國第一の普及率(人口と團員數との比)及び多數の支部を有するは、團員六千支部八十の滋賀縣、其他一萬の大坂府、六千六百の京都府、小縣でも二千九百を有する和歌山縣等近畿は何と云つても修養團の本場だ。各府縣共聯合會が益々堅實なる活動をなし、力強き伸展を遂げつゝある。兵庫縣の如きは愈々聯合會館建設の計畫成り、五萬圓の資金募集に幹部一

同大童になつて居る。後進の奈良も最近縣聯合會が出來た。

◇中國 最も古き岡山縣は、最近益々陣容整ひ、闘士も捕ひ、愈々發展の氣運に向つて居る。團員四千四百。廣島、山口、鳥取三縣何れも多らぬ旺盛なる發展振り、快哉を禁じ得ぬ。廣島四千、山口三千七百、鳥取は千九百で何れも激増の勢にある。島根も千三百に達した。

◇四國 四國は發展力が一番後れて居るが、最近香川、愛媛が動いて來た。本團講師の足跡の絶えて居た高知縣も最近土佐セメント會社に講習行はれ、三月中は各地にも講習開催せられ漸次同志がふえつゝある。現在の團員數、徳島四百、香川千二百、愛媛七百、高知四百。

◇九州 全國第一の大工場八幡製鐵所を初めとし、北九州一帯の大會社大工場が續々修養團化し、嚮然として一大勢力を形づくるに至つた。福岡縣聯合會は陣容を立て直し新銳の活動に入らんとして居る。團員數九千八百。之に次ぐものは長崎縣の五千。鹿兒島縣の二千五百等である。最近片倉製糸の全九州に於ける十一の工場一齊に修養團化したるは九州善化の一大勢力である。

◇殖民地

朝鮮、滿洲の團勢は益々旺盛、朝鮮聯合會は五月末秩父宮殿下を迎へ奉つて會館落成式を兼ねて團員大會を舉行せんとして居る。新興の臺灣も近々聯合會の成立を見んとして居る。朝鮮三千、滿洲五千四百、臺灣二千。

◇結語 全國的勃興の勢を大觀し、欣悅雀躍に堪へざると共に、勃興しつゝある府縣には、必ず幾人か本職の傍不眠不休の激勞、人知れぬ烈しき苦辛奮闘に心を悩し、健康をも傷めて居る貴き同志がある。此様な人に逢ふと涙を禁ずる事が出來ない。只伏し拜むのみである。そして、此同志の血涙に對してもデツとして居られるかと、本部長一同、發奮興起して居る。

財團法人修養團寄附行爲

第一章 名 稱

第一條 本團ハ財團法人修養團ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本團ノ目的ハ流汗鍛錬同胞相愛ノ二大主義ニ基キ同志相提携シテ各自修養ヲ圖リ社會ノ風教ヲ矯正シ以テ皇國

ニ貢獻スルニアリ

第三條 本團ハ其目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一、修養會、講演會、講習會ノ開催
- 二、雜誌及圖書ノ刊行
- 三、寄宿舎、修養會館、圖書館等ノ經營、俊才ノ養成
- 四、其他本團ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第三章 事務所

第四條 本團ハ事務所ヲ東京府下千駄ヶ谷町新屋敷六六八ノ三ニ置ク

第四章 團員贊助員

第五條 本團ノ目的ヲ贊シ所定ノ手續ヲ經テ本團ニ加入シタル者ヲ以テ團員トス

第六條 團員ハ別ニ定ムル規定ニ從ヒ團費ヲ納付スルコトヲ要ス

第七條 團員ハ別ニ定ムル規程ニ從ヒ本團ニ於テ發行スル定期刊行雜誌ノ配布ヲ受ケ且ツ本團經營ノ施設ニ關シ便宜ヲ

受クルコトヲ得

第八條 團員退團セントスルトキハ其旨ヲ届出ツヘシ
第九條 團員本團ノ體面ヲ汚損スル行爲ヲ爲シ又ハ第六條ニ違反シタルトキハ理事會ノ同意ヲ經テ團長之ヲ除名スルコトヲ得

第十條 賛助員ハ本團ノ目的ヲ翼賛スルモノニ對シ理事會ノ同意ヲ經テ團長之ヲ推薦ス

第五章 役員

第十一條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

顧問	若干名
團長	壹名
主幹	壹名
理事	若干名
監事	若干名
評議員	若干名

第十二條 顧問ハ評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ推戴ス

第十三條 團長ハ評議員會ノ決議ニヨリ之ヲ推薦ス

第十四條 主幹ハ從來ノ修養團創立者連沼門三之ニ任ス

連沼門三其職ヲ去リタルトキハ以後主幹ヲ置カス

第十五條 團長及主幹ハ理事會タルモノトス

第十六條 理事ハ評議員會ノ決議ニヨリ團員中ヨリ選任ス

理事中ヨリ常務理事若干名ヲ互選ス

第十七條 監事ハ評議員會ノ決議ヲ經テ賛助員又ハ團員中ヨリ團長之ヲ囑託ス

第十八條 評議員ハ理事會ノ決議ヲ經テ團員中ヨリ團長之ヲ推薦ス

但シ理事會ハ當然評議員タルモノトス

第十九條 團長ノ任期ヲ四年トシ理事監事及評議員ノ任期ヲ二年トス 但シ再任ヲ妨ケス

補缺ニヨリ就任シタル前項役員ノ任期ハ前任者ノ殘存期間トス

第二十條 顧問ハ團務ニ關シ相談ニ應シ且ツ援助ヲ與フルモノトス

第二十一條 團長ハ本團ヲ代表シ團務ヲ統轄ス

第二十二條 主幹ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ其職務

ヲ代理ス

第二十三條 常務理事ハ理事會ノ決議ニ基キ日常ノ事務ヲ掌

理シ團長主幹共ニ事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十四條 理事及監事ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ其後任者

ノ就職スル迄仍前任者ニ於テ其職務ヲ行フモノトス

第二十五條 評議員會ハ毎年一回團長之ヲ招集シ左ノ事項ヲ

審議ス

但シ團長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

一、本寄附行爲ニ規定セル事業

二、理事ニ於テ重要ナリト認メタル事項

第二十六條 團員二百名以上又ハ評議員四分ノ一以上若クハ

監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求アリタルトキハ

團長ハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二十七條 評議員會ノ議長ハ團長之ニ當リ團長事故アルト

キハ出席者五選ニ依リ之ヲ定ム

キハ出席者五選ニ依リ之ヲ定ム

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

キハ出席者五選ニ依リ之ヲ定ム

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

一、團費

二、資産ヨリ生スル收入

三、寄附金
四、其他ノ雜收入

第三十四條 本團ニ基金ヲ設ク

基金ノ積立金及管理ノ方法ハ評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム基金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス 但シ萬止ムヲ得サル場合ハ評議員四分ノ三以上ノ同意ヲ經ルヲ要ス

第三十五條 本團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十六條 本團ノ豫算ハ評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定メ決算終了後評議員會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第八章 支 部

第三十七條 本團ハ各地ニ支部ヲ置ク

第三十八條 支部ノ規定ハ本寄附行爲ノ範圍内ニ於テ團長ノ承認ヲ經テ當該支部之ヲ定ムルコトヲ得

第三十九條 團長ハ事業ノ執行上必要ナルトキハ支部幹部會議ヲ開キ團務ニツキ諮問スルコトヲ得

第九章 補 則

第四十條 本寄附行爲ノ執行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第四十一條 本寄附行爲ハ評議員總數四分ノ三以上ノ同意ヲ得且ツ主務官廳ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得、但シ第四條ノ變更ニ就テハ評議員會ノ同意ヲ經ルコトヲ要セス

第十章 附 則

第四十二條 本團設立當初ノ顧問、團長、理事、監事ハ設立者之ヲ委囑ス

第四十三條 本團設立ノ際ニ於ケル從來ノ修養團員ハ當然本團ノ團員タルモノトス

財團法人修養團後援會趣意書

修養團は明治三十九年二月十一日に創立されまして、今年は二十五年を迎へたのであります。其の間幾多の困難にも遭遇し前團長田尻子爵を喪ひましてからは暫く團長を缺いて居り

ました。

其の時に當り大震災災を蒙り非常の打撃を受けたのであります。然るに其後、人格徳望一世に高き現團長平沼騏一郎男爵が本團關係者一同の懇請を容れられて、この難局を御引受け下され、又創立當初より多大の盡力を致されて来た、二木謙三、宮田修の兩氏も常務理事として庶務會計を分擔される事となり、陣容茲に一新して第二期の活動に入つた譯であります。

創立者蓮沼門三氏は御承知の通り二十年一日の如く刻苦奮闘斯道の爲めに獻身の努力を致して参りました。それが爲め同君を中心として全國に亘つて今や十數萬の同志が愛と汗の精神を體して結束益々堅く平沼團長も修養團の爲めには『倒れて後已むの覺悟だ』と言明されて居ります。

然るに修養團は地方農村青年や、學生の中に團員が多いので團の活動を維持する資源を團員のみにも求むる事は目下の處不可能であります。此の點については多年關係された各位の常に御心配下さつた點であります。

如何に主義精神が立派で國家社會の爲め貢獻する素質を備へ

て居ても、經濟的獨立がなかつたならば其の目的を達成する事が出来ないであります。今日の修養團は消極主義を取つて進むなら曲りなりにも何とか經營が出来るかも知れません。

けれども社會の現状より見まして修養團の活動は國家社會の爲め誠に急を要する事と存じます。皆様が今日まで陰に陽に御援助下さいました事も、平沼團長が將來を背負つて起られた事も、皆其の志が同一であらうと考へられます。夫れ故教化團體としては、唯今全國中最も實力ある團體の一と認められて来た此の修養團をして一層の活動をなさしむるが爲め、茲に後援會を組織し同志諸君と協力して財的援助を與へたいと思ひます。

どうぞ本會の趣旨を御賛成下さいまして、邦家の爲め充分の御援助を御願ひ致す次第であります。

財團法人修養團後援會

役員 一同

財團法人修養團後援會規則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ修養團後援會ト稱ス
- 第二條 本會ハ修養團ニ援助ヲ與フルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ修養團事務所内ニ置ク

第二章 會 員

- 第四條 本會ノ趣旨ヲ贊シ一定ノ金額ヲ齎出スル者ヲ本會
會員トス
- 第五條 本會ノ齎金ハ一ヶ月一圓ヅツ五ヶ年拂込ヲ以テ一
口トス但シ數ヶ月分、分納又ハ全納ヲ妨グズ
- 第六條 會員ヲ左ノ三種トス
 - 一、正會員 一口以上十口未滿
 - 二、特別會員 十口以上百口未滿
 - 三、維持會員 百口以上

第三章 役 員

- 第七條 本會ニ會長一名委員長一名及ビ委員若干名ヲ置ク
- 第八條 本會ニ幹事長一名及ビ幹事若干名ヲ置ク
- 第九條 本會々長ハ修養團長之ヲ推薦シ其他ノ役員ハ會長
之レヲ委囑ス

第四章 會 計

- 第十條 本會ノ會計ハ修養團監事之ヲ監査ス
- 第十一條 本會資金ノ支出ハ修養團長ノ請求ニ依リ在京委員
會ノ決議ヲ經テ之ヲナス
但シ壹千圓未滿ノモノハ會長及ビ委員長ニ於テ
支出スルコトヲ得
- 第十二條 本會ノ會計ハ本會々報ヲ以テ之ヲ報告ス

後援會役員 (順序不同)

- | | |
|------|------------|
| 會 長 | 子爵 澁 澤 榮 一 |
| 委員 長 | 男爵 森村 市左衛門 |
| 幹事 長 | 瓜生 喜三郎 |
| 常務委員 | 男爵 團 琢 磨 |
| | 大橋 新太郎 |

委員

青木菊雄 服部金太郎
 矢野恒太
 古河虎之助 男爵 中島久萬吉
 清水釘吉 増田義一
 津崎尙武 小倉正恒

幹事

中野昇 竹内浦次
 岸田軒造 星貢一
 増田具治 渡部新盛
 松山政治 松井甚一郎
 白土千秋

後援會員芳名 (○印は完納)

1、維持會員

東京。男爵岩崎 小彌太殿
 東京末 延道 成殿
 東京淺野 總一郎殿
 大鷗小倉 正恒殿
 大阪男爵鴻池 善右衛門殿
 東京 男爵三井八郎右衛門殿
 東京。子爵澁澤 榮一殿
 東京服部 金太郎殿
 東京清水 釘吉殿
 大阪。男爵住友 吉左衛門殿
 東京。男爵森村 市左衛門殿
 東京。南滿洲鐵道株式會社殿
 東京諸井 恒平殿

2、特別會員

東京安田 修德會殿
 東京。片倉製絲紡績會社殿
 大阪故中 田錦 吉殿
 朝鮮 東洋拓殖會社京城支店殿
 朝鮮 子爵齋藤 實殿
 東京大橋 新太郎殿
 朝鮮。朝鮮 銀行殿
 同 京城電氣會社殿
 東京 男爵近藤 滋彌殿
 山口渡邊 祐策殿
 同。朝鮮殖産銀行殿
 東京矢野 恒太殿

山口國 吉 信 義殿
 東京青 木 菊 雄殿
 下ノ關 藤 井 正 一郎殿
 富山。加 藤 金 次 郎殿
 兵庫今 村 嘉 一 郎殿
 兵庫。佐々木 駒 之 助殿
 茨城高 尾 直 三 郎殿
 南洋岡 野 繁 藏殿

東京常 警 生 命 保 險 會 社 殿
 大阪鳥 井 信 治 郎殿
 佐賀森 田 判 助殿
 福岡中 野 昇殿
 朝鮮三 井 物 産 京 城 支 店 殿
 廣島松 本 清 助殿
 山口山 形 松 太 郎殿

大阪御 藥 袋 勝殿
 大阪。東 洋 紡 績 株 式 會 社 殿
 大連。安 藤 又 三 郎殿
 福島。日 東 紡 績 株 式 會 社 殿
 大阪。吉 川 又 平殿
 福岡。男 爵 安 川 敬 一 郎殿
 大連藤 根 壽 吉殿

八、正會員

朝鮮。湯 淺 倉 平殿
 同。朝鮮 鐵 道 會 社 殿
 同。鈴木 商 店 京 城 支 店 殿
 東京。利 倉 久 吉殿
 朝鮮。宇 津 木 勢 八殿
 同。韓 一 銀 行 殿
 山形長 谷 川 平 五 郎殿
 兵庫勝 原 梧 一 殿
 東京。波 多 野 重 太 郎殿
 朝鮮。不 二 興 業 株 式 會 社 殿

同。朝鮮 商 業 銀 行 殿
 東京。淺 利 三 郎殿
 兵庫高 石 重 親殿
 東京。三 矢 宮 松殿
 同。安 田 銀 行 京 城 支 店 殿
 同。山 口 銀 行 京 城 支 店 殿
 兵庫增 田 政 市殿
 東京岸 田 軒 造殿
 朝鮮金 剛 山 電 氣 鐵 道 會 社 殿
 大阪安 宅 彌 吉殿

同。漢 城 銀 行 殿
 同。第 一 銀 行 京 城 支 店 殿
 朝鮮。朝 鮮 郵 船 會 社 殿
 東京。福 島 甲 子 三殿
 同。十 八 銀 行 京 城 支 店 殿
 同。朝 鮮 火 災 海 上 保 險 會 社 殿
 大連村 田 露 鷹殿
 兵庫水 田 吉 太 郎殿
 同。京 城 株 式 現 物 取 引 市 場 殿
 朝鮮松 村 松 盛殿

德島生 田 清 三 郎殿
 兵庫猿 丸 俱 正殿
 同。立 岩 寅 雄殿
 同。吉 間 壽 男殿
 東京。宇 津 木 コ ズ エ殿
 東京。厚 見 純 明殿
 朝鮮。藤 原 喜 藏殿
 兵庫藤 田 文 吉殿
 青森平 井 三 男殿
 大阪花 見 喜 代 次殿
 朝鮮倉 成 熊 助殿
 廣島藤 田 俱 治 郎殿
 同。吉 田 實 殿
 同。山 下 末 吉殿
 同。玉 島 せ 吉殿
 福島遠 藤 清 一 殿
 神奈川 鈴 木 喜 市殿
 長野古 瀬 文 一 殿
 愛知。郡 築 治 三 郎殿

朝鮮武 部 欽 一 殿
 同。安 田 弘 殿
 同。網 谷 才 一 殿
 東京。梅 澤 節 治殿
 栃木荒 川 藤 一 郎殿
 東京。石 橋 弘 貞殿
 朝鮮。大 村 卓 一 殿
 同。砂 金 彌 之 助殿
 大連土 屋 丑 市殿
 新潟。故 八 木 朋 直殿
 盛岡枝 元 長 輝殿
 岡山。茂 業 喜 志 惠殿
 同。松 崎 好 正殿
 同。藤 野 光 治殿
 同。二 日 市 貞 滿殿
 青森田 沼 敬 三殿
 東京。林 金 治 郎殿
 東京山 田 稻 吉殿
 靜岡田 島 理 一 殿

同。松 寺 竹 雄殿
 同。豐 田 榮 之 助殿
 同。小 林 む つ殿
 兵庫本 條 德 治殿
 朝鮮。松 本 伊 織殿
 東京。川 名 洪 殿
 福島。賀 來 重 治殿
 朝鮮。海 東 銀 行 殿
 東京。故 岸 敬 治 郎殿
 東京。添 田 敬 一 郎殿
 朝鮮。福 士 末 之 助殿
 兵庫吉 田 妻 三 郎殿
 同。井 寄 福 次殿
 同。車 谷 寅 次 郎殿
 宮城佐 藤 暲殿
 東京守 屋 榮 夫殿
 島根本 田 常 吉殿
 長崎鬼 塚 貞 範殿
 東京。横 山 德 治 郎殿

昭和五年五月十五日印刷
昭和五年五月十八日發行

（非賣品）

發行所 東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町六六八
遠門三

印刷人 東京市本郷區眞砂町三六
田 尙

發行所 東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町六六八
法財團 養 團

印刷所 東京市本郷區眞砂町三六
日東印刷株式會社
電話青山一〇九〇九〇三番
振替東京一〇九〇三番

終